

八女すだれ

平成二十六年十二月十二日金曜日、「八女すだれ」が「福岡県知事指定特産民芸品工芸品に指定されました。※以下、『福岡県・広川町ホームページより』

【「八女すだれ」の始まり】

奈良時代の遣隋使によって伝えられ、九州の竹工芸師が京都に貴族の神殿づくりの仕切りとして献上した御簾が始まりと言われています。竹の産地である八女では、明治時代から竹ひご加工業者が多数存在し、提灯、仏壇などの工芸品に使用する材料として生産していました。竹細工用のヒゴも大量に生産され

た中で、それを室内調度品のすだれとして生産したのが、八女すだれの始まりです

八女すだれは、八女地域の竹材特産工芸品として、百年以上作られ続けているすだれ製品。竹製品の生産で全国的に名高い八女地方では、竹細工とともに連綿と作られています。

昭和初期数十軒あったすだれ業者は、現在では三軒のみとなっています。八女郡広川町にある二軒は、八女産の竹を加工した竹ヒゴを仕入れ、職人が今でも織機で一本一本織っています。また四方の縁（へり）を縫いつけたり、装飾金具や房を付けるのも手作業です。

伝統的技法で仕上げられたお座敷すだれ・御翠簾は、一般住宅・寺社仏閣用として全国に販

売されています。

安価な外国産と違うのは、竹材料が高品質な国産であること。使用する寸法に合わせて作る受注生産品のため、ほとんどが手作業によって一品一品異なる仕様が仕上げられ、伝統的工芸の室内調度品としての価値があること。波模様の節揃えや、竹ヒゴの表裏の返し織り、高密度な経糸など、手作業でなければできない技術を用いていること。

さらに、現在は旅館や店舗等で使用するため防炎加工がされているすだれもあります。

また、お座敷すだれは日本独特のデザインであり、海外へも輸出されています。

【生産団体】八女すだれ振興会（株式会社鹿田産業Ⅱ代表者・藤島製簾所・有限会社西川産業）